

# 勝央町立勝間田小学校

児童数 398名 ・ 学級数 18学級 ・ 教職員数 31名（平成26年10月1日現在）

## ○取組実践のキーワード

基礎的な知識・技能の定着  
補充学習

## ○標題（研究主題）

学習内容の確実な定着を図る補充学習

## ○取組を始めた経緯

過去の学力・学習状況調査や町独自に実施している標準学力検査等の結果を検証すると、調査時に学習している内容と比べ、下学年で学習した内容の平均正答率が低いことが明らかとなった。さらに、学力・学習状況調査のB問題を解く時間が十分ではないと回答した児童が多く、同様の問題に慣れてないことが推察された。これらのことから、下学年の学習内容の定着を図ることと、B問題で問われる、思考力・判断力・表現力を育成するための方策を検討することとした。

## ○取組の実施体制

### ＜勝央町学力向上対策委員会＞

- ・ 県より出島政策企画員を招聘し、学力・学習状況調査結果を基にした検証や先進事例等を紹介していただいた。
- ・ 各校の取組状況や改善プランの交流を行った。
- ・ 町で統一した家庭学習時間の確保や学習の手引き作成等に向けた取組の実施を検討した。
- ・ 学習教材作成のための学習プリント作成ソフトを導入した。

### ＜校内学力向上対策委員会＞

- ・ 学力・学習状況調査や標準学力検査をもとにした課題の掘り起こしと検証を基に改善プランを策定した。
- ・ 校内における指導体制を確立した。

## ○学力向上に向けた具体的な取組

### ＜朝学習＞

これまで実施していた朝学習の内容を見直し、今回の県学力・学習状況調査の結果や平成25年度末に町で独自に実施した標準学力テストの結果を基に、下学年の基礎的な内容の中から、平均正答率の低い（定着が不十分な）課題に焦点化して取り組むこととした。朝学習は全ての学級で毎日10分の時間を確保している。

### ＜放課後補充学習＞

放課後補充学習では、県の「到達度確認テスト」の国語と算数に取り組むこととし、取り組む内容も下学年の内容に限定し、必要なプリントを冊子にして全校児童に配付することとした。

放課後補充学習の時間は、火曜日：5・6年（20分）、水曜日：1・2年（10分）3～6年（20分）、木曜日：5・6年（45分、ただし、委員会やクラブの無い日のみ）である。

## ＜週末プリント＞

週末の家庭学習時間確保に向け、下学年の学習内容の中から、定着を図りたい基礎的な内容を週末プリントとして取り組むこととしている。

## ＜年度末の振り返りと確認＞

年度末には、同学年での学習内容の定着状況を確認するため、過去の学力・学習状況調査問題や標準学力テスト等を用いた確認を行うこととしている。また、定着が不十分な内容については、再度指導を行うなど、確実な定着に向けた取組を行うこととしている。

## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

これまでも、朝学習には継続的に取り組んできていた。放課後補充学習は、対象学年も5・6年限定で、週20分程度の取組であったが、本年度から対象学年を全校に広げ、多くの時間を確保することとした。

そのため、取組と成果の因果関係は明確ではないが、今年度の全国・学力学習状況調査の結果は、全ての教科・領域で全国平均を上回っており、昨年度の結果から比べると大きく改善されている。さらに、全校で取り組む体制づくりができたことで、学校全体の取組となり、教員の意識も高まった。

### 2 課題

- ・ 余裕時間を放課後補充学習に割り振ったため、バス時間などの時間的制約が多く、余裕が無くなった。
- ・ 朝学習や放課後補充学習の教材プリント作成に係る時間や労力が課題であったが、町に学習プリント作成ソフトを導入してもらうことができ、大幅な時間短縮が可能となった。
- ・ 学級全体の取組として一層の定着を図ることができた反面、学習内容の理解や定着に著しく課題のある児童への対応が今後の課題である。スクールバスのため下校時間に制限があり、余裕時間を放課後補充の時間に確保したため、個別指導のための時間確保が難しい。

## ○取組の継続・発展の要因

- ・ 日課表に位置付け、全校での取組とすることができたことは有効であった。
- ・ 学習内容を下学年の内容に限定することで、児童にとっても取り組みやすかったようである。
- ・ 学力・学習状況調査や標準学力テストの結果を基に、学習内容を焦点化できたことは、指導する側にとっても取り組みやすかった。

## ○管理職・中核教員等のアクション

- ・ 校内の学力向上対策委員会での学力・学習状況改善プランの策定
- ・ 各種調査を基に、それぞれの学年の課題の掘り起こし
- ・ 取組の進捗状況の把握